



一昭和大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

病院長ご挨拶

昭和大学歯科病院 病院長 榎 宏太郎

平成25年4月より昭和大学歯科病院長に着任しました矯正歯科の榎 宏太郎です。

医療の本質は「真心」です。「真心をもって何事にも立ち向かう、そして、その誠意を貫き通す」という意味の「至誠一貫」を建学の精神とした昭和大学に、歯科病院が開設されてから35年を経ています。この間、さまざまな歯科口腔疾患の治療とQOLの向上を目指して、城南地区をはじめ日本各地からの患者さんとともに歩んでまいりました。

最近では、歯科口腔疾患の原因や病態も複雑になり、全身の健康とも密接な関係にあることが明らかとなってきました。確実な診断と治療には、専門領域のより一層の深化とともにそれらの緊密な連携が不可欠です。歯科病院では、高度

な技術をもとに、医学部各科との密接な関係に基づいたチーム医療も展開しています。ここに医療系総合大学としての本学の使命があり、その有利性を活かすことは皆様の健康の維持に大きく役立つものと信じております。



さらに、研究開発された新しい技術や知見をより多くの治療に活用すべく、世界をリードする先進医療やさまざまな産学共同プロジェクトに取り組んでおります。

今後も、真心とチーム医療、そして高度な医療技術で、患者さんの痛みや不自由さを全教職員が一丸となって解決していく所存です。

下記に、診療科の構成を簡単にご紹介させていただきます。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 治療が怖い、持病で歯科治療が心配 | 連携歯科 |
| お口の中を全体的に診て欲しい | 総合診療歯科 |
| 歯がグラグラしたり、歯茎から血が出る | 歯周病科 |
| 歯がしみる、歯が折れてしまった | 歯内治療科 |
| 虫歯や歯の色が気になる | 美容歯科 |
| 歯が無くて噛めない、入れ歯が合わない | 補綴歯科 |
| 親知らずを抜きたい、あごが腫れて痛い | 口腔外科 |
| 歯並びをなおしたい、顔のゆがみが気になる | 矯正歯科 |
| 子供の虫歯を治したい | 小児歯科 |
| ご高齢や持病のため、歯科治療が心配 | 高齢者歯科 |
| 歯の無いところをインプラントで治療したい | インプラント歯科 |
| 障がいのある方の治療・食べ方の指導を受けたい | 障がい者歯科 |
| 飲み込めない、うまくしゃべれない、無呼吸がある | 口腔リハビリテーション科 |
| 口を開けるとアゴが痛い、大きく開かない | 顎関節症治療科 |
| 治療のために骨や歯の中の検査をします | 歯科放射線科 |
| 安心して心地よい歯科治療をお手伝いします | 歯科麻酔科 |
| 全身の病気の診断と治療、体調の確認をします | 総合内科 |
| 病気の確定診断を行います | 臨床病理診断科 |





本年4月1日より昭和大学歯科病院副院長に就任いたしました全身管理歯科学講座歯科麻酔部門の飯島と申します。何卒よろしくお願い申し上げます。

歯科病院は中核病院として地域との連携が重要な役割です。歯科医療は外来処置が中心ですが、時には入院を必要とする複雑な治療や特別な配慮が必要な治療もあります。たとえば、最近増えているのは「血液さらさら」の薬を内服されている方で歯科外科手術が必要な方です。「血液さらさら」は血栓を作らないために大切ですが、血が止まりにくいと出血を伴う手術ではかえってリスクになります。血栓を作らないか、出血を止めるようにするか、そのバランスを考えて専門的に血の止まりにくさをコントロールする必要があります。そのためには設備と十分な術後管理が必要になります。このような方に専門的に安全に対処するにはやはり歯科病院のような設備と専門家が必要になります。

また、歯科治療が怖い、あるいは口の中を触られると吐き気が出てしまう方も多くいらっしゃいます。このような方は長い間、歯科治療を受診できないために虫歯や歯周炎がかなり進行しています。この問題を解決するために麻酔薬を使って時には全身麻酔の下に処置を行います。やはりこれ

も設備や専門家が必要になります。歯科病院では年間2500例余りの患者さんが麻酔科管理で歯科治療を受けていらっしゃいます。この4月までは昭和大学歯科病院では地域連携歯科の佐野教授、口腔衛生学の向井教授が地域連携活動を推進してきました。4月からはこの連携の流れを引き継いだ後輩がこれまで以上に患者さんの歯科治療に邁進しておりますので変わらず連携のきずなを強めていくものと思います。

その他、慢性心不全やさまざまな全身疾患をお持ちの歯科患者さんがおられて、いずれも専門的な対応が必要になります。このような社会的な役割を歯科病院は果たしていかなければなりません。昭和大学歯科病院には循環器および呼吸器内科の教授、講師の先生が専任で歯科患者さんの全身状態を診ております。また、日本歯科麻酔学会という歯科麻酔の専門の学会の認定医、専門医が常勤、非常勤合わせて20名以上が勤務しております。歯科のそれぞれの専門分野以外にもこれだけ全身管理の専門家が集まっている病院はなかなかありません。さらに地域の医療にこの専門知識を生かして、地域の皆様にとってお役にたつ病院として榎院長、馬場副院長とともに機能させていこうと考えております。

最後に一つお願いがあります。昭和大学歯科病院は歯科の教育病院でもあります。院内では時には多くの学生をご覧になることもあると思います。病院に来ている学生はそれまで4年間勉強をして、厳しい試験に通ってきた学生だけが登院を許されています。必要な知識や医療人としての基本的な考え方を身に付けてきた学生です。大変恐縮ではありますが、これからの歯科医療を支える卵たちが将来の歯科医療を担っていけるように見学や実習にご協力をいただければ幸いです。



このたび、昭和大学歯科病院、副院長を拝命し、平成25年4月に就任致しました。槇病院長、飯島副院長と共に、さらなる患者サービスの向上を目指し、昭和大学歯科病院の発展のため、微力ながら邁進していく所存です。

医療技術の進歩によって寿命が延び、超高齢社会に突入したわが国では、長くなった人生を健康で充実したものにしようという意識が高まっています。それに伴って、医療の目的が延命から生命の質の尊重へと変化し、QoL(Quality of Life/生活の質)の向上を目指した医療サービスが求められるようになりました。QoLと密接に関連する歯科医療の担う役割はこれまで以上に大きくなっており、患者ニーズも多様化しています。これらに対応するため当病院では各種専門外来を基盤として高いレベルの歯科医療を提供していくつもりです。

また、高齢化に伴うもう一つの大きな変化は歯科を受診する患者さんの疾病構造が複雑化していることです。高血圧などの循環器系の疾患や糖尿病等、様々な全身的な疾患を抱えて歯科を受診される方が増えています。医療系総合大学としての昭和大学の利点を生かして、昭和大学歯科病院では、そういった方にも安心して質の高い歯科医療を受けて頂けると考えております。

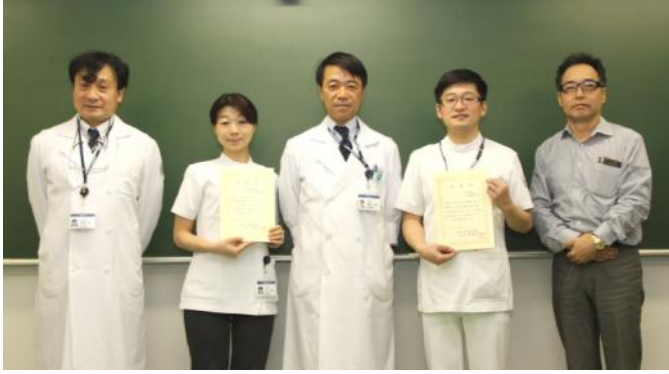
さらに、私たちは地域の歯科医院から安心して

患者さんのご紹介を頂けるよう、また、紹介された患者さんにも安心して受診し、満足して頂けるような地域連携体制を整えることが重要な責務であると考えてきました。当院は最高の歯科医療技術を提供できる2次医療機関として、また、地域に根ざした歯科医療センターとして今後も努力していく所存です。

医療系総合大学としての昭和大学歯科病院の使命は、皆さんの期待と信頼に応え、安全・安心で高度で先進的な、そして地域に貢献できる、医療を提供することであると認識し、患者さんにとってよい病院であることを目指しています。そのためにも、お気づきの点がありましたら、ご遠慮なさらずにご意見、ご助言いただければと思います。



平成25年度 病院長表彰



3月27日病院長表彰がありました。

インプラント歯科石浦雄一先生がインプラント診療の向上、口腔リハビリテーション科伊原良明先生が口腔リハビリテーション診療を通じた地域医療貢献、高齢者歯科山口麻子先生が歯科訪問診療、高齢者歯科診療の貢献、放射線室遠藤 敦技師が撮影予約待ちの改善により岡野病院長から病院長表彰を受けられました。

病院広報委員長 高橋 浩二

歯科技工士研修生終了式が行われました



歯科病院では優秀な歯科技工士(義歯や冠を作る職人)の養成のために、新東京歯科技工士学校の技工専攻科の研修生を1年間受け入れています。3月8日に修了発表会として、症例発表が行われました。今回で16年目となりますが、1年間の

充実した研修ですっきりたくましくなったと感じました。

その後、6名の修了式が行われ、研修生の関口幸一郎さんが最優秀研修生に選ばれました。会場を移して懇親会が行われ、研修生達の将来の夢などについて和やかに談話しました。来年度も研修生を受け入れる予定です。

患者さまの歯を作らせていただき、また診療の見学もさせていただき、ありがとうございます。マンツーマンで研修生を熱心に指導して下さった技工室の方々や、お世話になった歯科医師・スタッフ・事務の方々に厚くお礼申し上げます。

歯科技工室 松橋 谷千代

新入職員 紹介



皆さま、よろしくお願ひします。

左より、言語聴覚療法室 山田 紘子、歯科衛生室 海老澤 友梨、矢部 晶、櫻井 みゆき

編集後記

4月より榎病院長、飯島副病院長、馬場副病院長の新体制で昭和大学歯科病院は新たな門出を迎えました。榎病院長は昭和大学歯学部出身の初めての病院長で、昭和52年の本院開設から35年を経て新時代が到来したといえます。病院スタッフ一同、新体制の下で意欲満々で臨みますので今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(K.T)